

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あすか福祉会の企業理念である「尊厳」を基にご入居様がその人らしい生活ができ、笑顔で生活していただく事が出来るようにご入居様への目配り・気配り・心配りを行いながらケアに努めています。この数年のコロナ禍でご家族様や社会との交流が厳しい状況下ではありましたが、ご入居様が普段の生活と変わらず過ごしていただく事が出来、その中で認知症の進行を軽減できるように心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は城下の史跡や商業施設など賑わいのある地区であり、昨年はオリンピックの聖火のスタートを目前で見れるなど、穏やかな日常の中に外部からの程よい刺激がある。職員は、入居者の尊厳を大切にしたいケアを実践するため、入居者にとっての幸せとは何かを考え具現化している。職員は入居者の意欲を引き出すポイントを、日常のさりげない支援の中に取り入れている。ツワの皮むき、干し柿や漬物作りなど、入居者のこれまでの日常が事業所においても再現できている。個人援助記録は、入居者の毎日の様子を簡潔に記録し、言葉や思いを特記に記すことで、介護計画に活かしている。共同生活の中に個人の自由が多く見られ、在宅の延長線上にあり、まさに入居者の人生、尊厳を大切に扱う職員の温かみを感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基にご入居様が自分らしく生活する事が出来るように職員と理念を共有していきながらご入居様に寄り添い思いを汲み取るような心がけている。	法人理念は「尊厳」である。管理者と職員は、法人理念を基に、入居者の生活の質の向上に向けた支援に取り組んでいる。管理者は理念の思いが薄れないよう、ミーティングや新人研修時に繰り返し理念の意図を説明している。職員の働く姿勢やケアの内容からも、理念の浸透状況が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり地域行事の参加は厳しい現状だったが、病院受診等での知人・親族等とのふれあいを大切にしている。	コロナ禍で地域行事など交流する場面が減少している時こそ、地域との繋がりが重要とし、可能なことを実施している。職員と入居者は地域清掃に参加したり、敬老の日には管理者が地域住民に挨拶に出向く等の事例が確認できる。今後は、子どもたちとの交流も視野に入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族・見学者・入居相談等の際には、個別に相談に応じてはいるが、地域全体には活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催だが、コロナ禍の現状で中止とさせてもらった回もあり、その際も現状報告は行ってきている。開催の際は、現状報告を行い施設の現状を共有してもらっている。	年6回、規定メンバーで開催している。新型コロナ市中感染レベルが高い時期は、書面報告となっている。運営推進会議では、入居者の状況、事故報告を行い、入居者の日常や行事の写真を添え、わかりやすい議事録である。転倒事例では、自立とリスクについて、意見やアドバイスを得て支援に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、密に連絡を取り合いながら連携を図る事が出来ている。	管理者は、入居者に関わる行政部署と連携を図りながら、良好な関係を築いている。入居者の状況を電話や面会で情報共有し、本人に必要なケアが受けられるよう努めている。行政から、介護や保険に関わる最新情報の提供があり、職員と情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・接遇・虐待など定期的に勉強会等を行い意識付けを行っている。日中は、玄関の施錠をする事なく見守り等を徹底している。	身体的拘束等の適正化のための指針とマニュアルを整備し、年2回の内部研修は管理者が職員向けに行い、資料を配付している。管理者と職員は、不適切ケアや拘束に繋がる可能性がある言葉遣いなどの事例を、ミーティングや申し送りノートを活用して、全職員で支援に努めている。	

高齢者グループホーム和庵(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・接遇・虐待など定期的に勉強会等を行い、職員が分かりやすく丁寧に話しを行い理解してもらえるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用されている方はおられない。必要性が出てきた際は、社会福祉協議会等と連携をとっていきながら職員に学んでもらいたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂いた上で同意書に記名・捺印をして頂いている。重要事項説明書の変更等にもご理解いただき捺印等をもたらしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の状況下でご家族とのコミュニケーションも大事にしており、事業所便り・ホームページ・電話等で相談しやすい状況を作っている。	入居者からの要望で、朝食をパンに変更したり、コーヒーやラーメンを提供したりしている。毎月請求書と一緒に郵便物を同封し、入居者の状況を一筆加えている。コロナ禍の中でも予約制で面会が可能である。体調等変化時にはその都度電話で連絡している。職員は面会や電話連絡時に、家族の意見要望を聞き取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の研修会・ミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映している。また、普段から職員とのコミュニケーションを大事にしている。	職員会議やミーティング時に、職員から管理者に運営、ケアサービスについて提案している。管理者は契約更新時に職員と面談し、現状確認や働き方の意向を聞き取っている。職員一人ひとりの家庭の事情に合わせてシフト調整し、協働する体制が整っている。法人の管理職会議で事業所の意向を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上には力を入れており、働きやすい環境(職員の過程環境に合わせた勤務体制、有給取得率の向上等)また、処遇改善加算により賃金もアップされ働きやすい環境整備が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術等についてのスキルは経験を踏まえながら成長している。それ以外の専門知識も含めた分野については日々の業務内での経験と勉強会等での知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の状況下であった為、交流等を行う事はできず、また、環境整備も万全でない状況である為、この数年は交流を行う事が出来なかった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前調査をさせていただき、ご本人様の困りごとや不安に感じておられる事、要望等をお聞きする事で少しでも安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大事な御家族様を預けるご家族様も不安に感じてあると思われるので、ゆっくりと話しをお聞きして少しでも不安なく預けていただく事が出来るように傾聴に努めて不安を解消していただく事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、又、居宅ケアマネ・ご家族・本人様・施設ケアマネでバトンタッチ(紹介)を兼ねて和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の状況を踏まえ、残存機能を十分に発揮していただきながら、生活の中で洗濯物を畳んだり、テーブル拭きをして頂いたり、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来ない状況が続いたので病院受診の際は、その内容の報告の電話をさせていただいたり、請求書と一緒に本人様の状況を文章でお伝えをしたりしながら、ご家族との信頼関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の状況なので、外出や面会も出来ない状況ではあるが、病院等で親戚・知人等と再会した際には、楽しく懇談していただいている。	アセスメント時に生活習慣や馴染みの関係を把握している。管理者は、コロナ禍の中でもできるだけ入居者や家族の希望を実現させたいと努め、ドライブで自宅や生家を訪れたり、家族の協力のもと、墓参りや法要の集いに出掛けることを手助けしたりしている。入居者に食べてもらいたいと家族や知人からシラウオやブリが届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居様の認知度・ADL・IADL等を踏まえながらホールでの過ごし方も対応させてもらっている。ただ、孤独にならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の状況が面会が出来ない状況の為、ご本人様とお会いする事は出来ないがご家族様には、何か心配ごとがあればいつでもご相談下さいとお伝えをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を大切に、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、御家族、サービス提供事業所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いている。	入居者一人ひとりの生活リズムに応じて日課計画表を立てている。和裁をしていた入居者が、視力の衰えから裁縫を断念した時に、職員からの働きかけで、編み物を始めた事例がある。衛生意識の高い入居者が、おしぼりの共用を嫌がった時には、業務日誌・申し送り時に確認し、個別対応を行っており、本人本位の支援が見てとれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全項目と同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、スタッフ間で記録や申し送りを密に行い、気付きを大切に情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な視点からの気づきや提案を大事に、プランに把握するように努めている。	アセスメントを基にした初回介護計画は、半年以内で見直し、その後1年と6ヶ月でモニタリングや評価を行っている。支援目標は、本人と家族の意向を基に、QOLの向上に向けて具体的な目標を作成している。個人援助記録から、介護計画の実践状況が確認できる。支援経過記録、特記事項等から情報を収集し、次の計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助の記録への日々の様子の記録は勿論の事、些細なきづきもスタッフ間で共有できるように取り組んでいる。		

高齢者グループホーム和庵(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りのニーズに対応を心がけているが、現状出来る事が限られてしまっている。柔軟な対応が出来るように頭を柔らかくして対応するように声かけを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、コロナ禍で難しい状況ではあるが、コロナ禍が落ち着いたら保育園の園児来園等での交流を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向を大事に、訪問看護・かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受ける事が出来ている。	職員が受診同行し、入居者の状況を正確に医師へ伝え、適切な医療を受けることができるよう支援している。専門家を受診する場合は、家族の協力を得ている。受診内容は、支援経過記録に記入し、申し送りで職員は情報共有している。夜間や緊急時対応の連絡体制を職員は理解しており、適切な支援となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連携と情報の共有を図りながら、早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう病状の把握や病院関係者との連携を図っている。医療機関との情報の共有・交換については対馬版ケアパスを活用している。		
	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1Fでは終末期については書類などで説明はしているが、現状としては看取りまでは出来ていないのが現状です。	契約時、重度化した場合の指針や加算の説明を行っている。また、看取り支援はこれまで行っていなかったが、昨年初めて看取り支援に取り組んでいる。運営推進会議で情報共有しており、看取り支援を実践したことで、さまざまな状況が考えられることを報告している。看取りや終末期に関する説明書面の整備は、これからである。	看取りや終末期に対する事業所の考えについて、家族と共通理解ができるよう、文書として整備することに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段は穏やかに生活しているが急変時等の対応についても頭では分かっているが、となるとどうしても慌ててしまい冷静さに欠けてしまう。緊急時等でも慌てる事なく冷静に対処できるように訓練等の実施を行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては消防訓練を行い、地域との協力体制作りにも努めている。自然災害訓練や自主訓練は実施していない。	今年度は年3回避難訓練を実施し、消防署の立会いが確認できる。自然災害のマニュアルを整備しており、水害時は2階に避難としている。地域消防団との連携、周辺地域への声掛けも行っている。備蓄や持ち出し備品も準備している。ただし、今年度の火災訓練は日中想定のみであり、自然災害訓練も確認できない。	夜間想定での訓練や出火元、出火原因を複数設定するなど避難訓練の工夫に期待したい。また、自然災害では、想定される水害について、机上訓練も含め取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるように、敬語を使い敬う言葉かけをスタッフで共有し、笑顔で対応できるように心がけて取り組んでいる。	理念“尊厳”の具現化を目指して、接遇マナー・言葉遣いの研修を実施しており、職員は入居者に穏やかな口調で敬語を用いるように心掛けている。地域の耳慣れた方言で語りかけることで親しみが増している。書類等は、所定の場所に保管し、勤務規律には知り得た情報を口外しないように定め、職員は遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談しやすい雰囲気作りにも努め、本人の思いや希望を遠慮なく表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに寄り添いながら穏やかに過ごせるように、その日の体調・気分・表情を伺いながら支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	HP受診・外出・誕生会等の行事毎は勿論の事、当日着用する洋服もその人その人のこだわりを大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査等を入居前に行い対応しているが長期入居となると趣味・嗜好にも変化が見られる為、変化にも注意していきながら、バランス良く食事を摂ってもらいまた、安全に摂取出来るように配慮している。片付けも含めて出来る事は行ってもらっている。	法人内の栄養士が立てた献立をもとに入居者の状況や体調・好み等を考慮し、事業所内のキッチンで職員が調理している。正月には手作りおせちを膳に盛り付け、餅を搗き、咀嚼が難しい入居者には団子を提供する等工夫している。梅干しや干し柿、つわむき等、入居者は季節の台所仕事を職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、記録を把握している。特に水分量に対しては、脱水等の危険性が高いので注意を払っている。お茶の時間には、コーヒーや紅茶等のレパートリーも増やして美味しく摂取していただく事が出来るように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内の清潔保持は、確実に行いました、誤嚥の危険がある方には、食前のうがいを行ってもらう事で誤嚥の回数も減る事が出来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、排泄間隔に合わせ、出来るだけトイレで排泄できるように取り組んでいる。	事業所の方針として、なるべく布パンツを使用して生活できるよう支援している。トイレは広く、車椅子でそのまま入ることができる他、浴室と扉で繋がっているため、失禁時にも速やかに対応でき、本人の羞恥心への配慮もできている。職員は、細やかな支援にて、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをしたり、食物繊維や水分を十分に摂る事は心がけているが、慢性的な便秘の方はどうしても緩下剤でコントロールをさせて頂いている。(医師の指示もあり)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴支援を行っている。お一人お一人のレベル・ペースに合わせて介助している。レベル低下により浴槽に入ることが困難な方はシャワー浴になるが足浴も行いながら温まってもらっている。また、浴槽に入る方には入浴剤やゆず等を浮かべたりして楽しんでもらっている。	職員の提案で、夜勤者が朝のうちに湯を張ることで、浴室全体が温まり入浴に繋がった改善例がある。職員はできる限り入居者が浴槽で温まるよう介助している。週3回の入浴日以外にも個人の体調や生活リズムに対応している。海女だった往時を想起して、広い浴槽に体を横たえて楽しんで入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んで頂いている。又、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮、働きかけも行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、ご入居様の状況・状態に応じてその都度、訪問看護師及び主治医に伝え処方内容の検討を相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご入居様、お一人お一人になるべく役割を持ってもらい、可能な限りしてもらう事で生活の充実につながっていると思われる。		

高齢者グループホーム和庵(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の状況下の為、外出出来ない状況が続いている。施設内での運動等を活発に行っている。	事業所前道路を東京オリンピック聖火ランナーが走った時には、玄関先で旗を振って応援している。病院受診時等をドライブの機会として、個別の外出希望に対応している。コロナ禍の状況が落ち着いている時を見計らって、桜や紫陽花、藤の花見の他、鮎戻し公園へ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ家族の意向を聴きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、事務所で管理させてもらい適宜買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙が届いたらご入居様に読んであげたり、電話については難聴の方が多いので近くで言葉を伝えたりして支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他、明るさ・湿度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫をしている。又、季節の花をテーブルに飾ったり、月毎に壁の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしている。	各ユニットの広いリビングは、入居者が車椅子や押し車など利用しても、気兼ねなく行動できる空間である。室内は目に優しい明るさであり、季節の飾り付け等を掲示物がある。また、リビングには、空気清浄機を設置している。職員は換気を適時行い、手すりなどもアルコール除菌し、感染対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ等を複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人でくつろぐ時間が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くように御家族にもご協力いただき、本人様が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。	馴染みのものは自由に持ち込むことができる。テレビやラジオ、冷蔵庫などの家電や調度類等、各居室は入居者の個性が見られる。ベッドの位置や飾り付けなど、入居者が安心して暮らせるよう検討し環境整備を行っている。職員が毎日清掃を行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく、わかりやすく、安全にも配慮しながら自立した生活が送れるよう配慮している。		